

令和2年10月26日

第2回遠野市総合教育会議 会議録

遠 野 市

令和2年度第2回遠野市総合教育会議 会議録

- 1 開催場所 遠野市役所とぴあ庁舎 大会議室
- 2 開催日時 令和2年10月26日（月） 午前9時00分から午前11時25分まで
- 3 出席状況

○ 出席者

市長 本田 敏 秋
教育長 菊池 広 親
委員 角田 直 樹
委員 千田 由美子
委員 菊池 崇
委員 菊池 和 子

○ 職員

教育部長 伊藤 貴行
総務企画部長 鈴木 英呂
経営管理担当部長 菊池 享
子育て応援部長 佐々木 一富
市民センター所長 小向 浩人
文化振興担当部長 石田 久男
総務企画部政策担当課長 新田 正宏
総務企画部財政担当課長 海老 寿子
総務企画部管財担当課長 多田 清子
子育て応援部こども政策課長 阿部 智恵子
教育委員会事務局学校教育課長 佐々木 淳一
教育委員会事務局学校総務担当課長 佐々木 伸二
教育委員会事務局小中高連携推進監 澤村 一行
学校給食センター所長 菊池 徳明
市民センター生涯学習スポーツ課長 高橋 隆悦
市民センター文化課長 宮田 秀一
市民センター文化課こども本の森推進室長 佐々木 真奈美

開会・開議 午前9時00分

1 開会

○教育部長

おはようございます。ただ今から令和2年度第2回遠野市総合教育会議を開会いたします。私は、教育部長の伊藤貴行でございます。本日の会議の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日は、市長、教育長、教育委員は、全員出席していただいております。それでは、始めに市長からご挨拶をお願いいたします。

2 市長あいさつ

○市長

おはようございます。いつの間にか10月も26日になりまして、あっという間に、このコロナでの1月から10か月が経とうとしております。仕方がない、やむを得ないという言葉の中で、この10か月の間、様々な制度、仕組み、社会のあり方、組織のあり方、人と人とのあり方、あるいは地域と地域のあり方、実に悩ましい課題を突き付けてきております。

学校現場においても、全国一斉休校、3月の学年末の卒業式、入学式を前に国の決定の中で学校現場に大きな嵐が吹き込んだことも記憶に新しいところであります。その中で遠野市の教育現場では、委員をはじめ、教育委員会、学校現場の先生方に、しっかりと真正面からこのウイルス問題にも向き合っていただいたということへ、市長として感謝と御礼を申し上げたいと思います。大きな混乱もなく、子どもたちが元気な歓声の中で、このウイルスに負けるなど、様々な分野で活動している姿から元気をいただき活力をいただきました。我々もしっかりとそれに向き合って、子どもたちに我々が何かできるか、何をしなければならないのかというようなことを保護者の皆さまとタッグを組み、これからの時代を担う子どもたちにどう向き合うのかということについて考えなければなりません。

今日は、第2回の総合教育会議です。

お手元に膨大な資料を用意しております。

今年の4月に実施されました学力及び学習状況の調査の結果をまとめたもの、6月に市内の中学生を対象に行った進路アンケート。これらについて、報告を申し上げることといたしております。

協議調整事項としましては、今進めております第2次遠野市総合計画です。

11月2日には最終答申をいただくことで、詰めの作業を行っております。昨日も日曜日でしたが、夜遅くまで担当事務局と打ち合わせをしました。膨大な紙資料が机の上に積み上げられまして、それを見ながら担当職員と激しく議論いたしました。本当にこれでいいのか、もっともっと考えなければならないのではないかと。財源はどうだというようなことを踏まえながらの議論を展開いたしました。その作業もいよいよ大詰めであります。

総合計画の大綱2、大綱4、大綱5といったところに子どもたち、教育を取り巻く課題が計画の中に盛り込まれております。担当部長等から状況を報告し、委員の皆さま方からも色々なご意見をいただきたいと思います。思っております。

総合計画審議会は、25人の委員の皆さまで構成されております。4回の委員会を開き、分科会も開き、それぞれの分野におきまして、色々な意見をいただいているところです。今日は、教育分野について、委員の皆さまからも忌憚のないご意見をいただきながら、明日には庁内手続きといたしまして、最終答申に向けての策定委員会を開催することといたして

おります。その中には、委員の皆さまからも意見をいただきながら、最終的な手順を踏んで、11月2日に決定作業を進めてまいりたいと思います。

なお、11月2日に総合計画審議会から答申をいただきますと、それを踏まえながら、所定の手続きを踏みまして、11月24日に調整されております市議会の全員協議会にご説明を申し上げまして、12月定例市議会におきまして承認していただくという手続きに入ろうかと思っ
ているところでございますので、よろしくお願い申し上げます。

なお、この配布資料につきましては、ご覧のとおりでございますので、よろしくお願い申
し上げまして、冒頭の挨拶に代えさせていただきます。

よろしくお願い申し上げます。

○教育部長

ありがとうございました。

それではここからは、遠野市総合教育会議設置要綱の第4条第1項の規定により、市長が
議長になりますので、会議の進行をお願いしたいと思います。

市長よろしくお願いいたします。

3 報告事項

○市長

それでは、要領よく進めていかなければならないと思いますので、ご協力をよろしくお願い
申し上げます。

(1) 遠野市小中学生の学力及び学習の状況について

○市長

最初に報告事項から進めてまいります。

報告事項(1) 遠野市小中学生の学力及び学習の状況について、担当から説明をよろしくお
願いします。

○学校教育課長

学校教育課長の佐々木淳一です。よろしくお願いいたします。

はじめに、遠野市小中学生の学力及び学習の状況について、3点についてご説明します。

1点目は、NRTと呼ばれております全国標準学力検査です。市独自に行っている検査で
あり、今年度の分析結果が出ましたのでご報告いたします。

2点目は、県学調のアンケート調査の結果5項目について、ご説明いたします。

3点目は、市が現在行っている学力向上に係る事業の確認をさせていただきます。

NRTというのは、集団基準準拠検査といいまして、全国で多くの学校が実施しているも
のになりますが、どこかの自治体が頑張ったから遠野市が比較して下がるという事がなく、
問題自体が標準化されているので、毎年度その学年の子どもたちがどれくらいの力を持って
いるかということが測れるというものになっています。

本市では、知能検査も実施しておりますので、これと併せて分析すると、児童一人一人の状況について読み取ることができ、知能に応じた学力がきちんと身につけているかということについて確認することができます。

ここで申し訳ございませんが、お手元の資料について、少し修正をお願いしたいと思えます。令和元年度の中学校の実数値ですが、今パワーポイントでお示している48.8が正しいものでございますので修正をお願いいたします。

ご覧のとおり、「まちづくり指標」として、平成28年度から令和2年度までの5年間を見てみると、残念ながら今年度4月に行った調査では、今までの中で一番低い数値になっており、小学校、中学校とも課題が見られる結果となりました。新型コロナウイルスの関係で臨時休業となった時期もあり、様々リズムが違うところもありましたが、このあたりは、分析を進めながら、今後改善を図っていかなければならない部分であります。

小学校は令和元年度で数値の下降が見られています。中学校は今年度で数値の下降が見られております。

詳しく見てみますと、教科ごとの状況は、小学校では、社会と理科において、令和元年度のあたりから下がっていると見受けられます。国語と算数につきましては、比較的、各学校とも学校公開を含めた研究を行っていることもあり、良好な状態できています。50を超えているということは全国の平均、標準値を超えていることになりますので、46、48というのはそれに比して下がっているということになります。

中学校は、令和2年度に下がっています。ある程度横ばいに来ていたのですが、英語が下がっているということが分かりました。

実際にどうなっているのかということについては、学力検査と知能検査のバッテリーと呼びますが、両方の相関関係を見てみます。そうすると、グラフの中で線が右上がりになっていますが、真ん中の帯状の部分が知能検査で期待されているような学力を身につけている子どもたちということになります。その帯より上であれば、それ以上の学力を身につけているということです。併せて、その下には色を付けましたが、アンダー・アチーバーと呼ばれる、知能の期待値ほど得点できていない子どもたちがこれぐらいおります。

知能から期待される学力を発揮している子どもたちの割合は、小学校、中学校もご覧のとおりほぼ横ばい、もしくは中学校は回復傾向ということで好ましい傾向にはあります。全体的な数値では見えないような実態ですが、実は頑張っているという部分を確認できます。

本市では、知能から期待される学力を発揮している児童は80%を超えています。但し、発揮できていない生徒も10%程度いるということです。このアンダー・アチーバーをゼロにすることを目指して、今年度も授業改善に取り組んでいます。

では、アンケート調査からです。これは10月に実施される県学調のアンケート項目5つに注目して見ております。

1つ目です。「児童生徒が自分で調べたことを分かりやすく文章に書く指導をしていますか。」という項目で、目標値は100%、小学校11校ですが、「どちらかといえばしている」を合わせれば100%ですが、積極肯定「しています」は本年度3校、中学校は0校ということになっています。

2つ目です。「児童生徒自身が学習の成果（課題）を実感できる振り返りとなっていますか。」目標を立てて学習を振り返るという指導をしています。これにつきまして、令和2年

度の小学校は5校、中学校は2校ということになっています。小学校を確認すると、「どちらかといえばなっている」というのが5校、「あまりなっていない」が1校となっています。

3つ目です。「授業を進める際、児童生徒の間違いを認める雰囲気を作っていますか。」という、生徒指導的な部分になります。こちらにつきましては、小学校、中学校ともある程度作っているという回答になっています。

4つ目です。「諸調査の自校の分析結果から見えた児童生徒のつまずきに対応した授業改善を行っていますか。」というところです。全体的には取り組んでいただくようお願いしているのですが、例年どおりに諸調査が実施されていないことにより、数値としては確認できませんが、このことは研究会等でも対応しているところです。

5つ目です。「授業内容の理解を促進する家庭教育の課題（宿題）を計画的に出していますか。」というところでは、小学校、中学校とも出しているという学校が多くなっています。まとめです。

各校ともそれぞれの項目の「質」を強く意識しています。

2つ目が、「もっとできる」という思いから、観察しているとよくできている学校だと思うのですが、厳しい評価をして、自ら消極的な回答をしている学校もあるのかと思っています。

3つ目です。「もっとできる」との思いに応えるため、指導主事を派遣して取り組んでまいりました。今後も続けていきたいと思えます。今後もこの指標を市内全校が自信をもって取り組んでいると言えるように、きちんと目標をクリアできるように指導・支援を継続していくことを確認しております。

最後に、今年度の事業のご紹介です。

学力対策事業としましては、先ほど申し上げました知能検査・標準学力検査を行っています。指導主事や学校教育専門員の派遣、教育研究指定校の指定により、各中学校区の小中学校が連携した授業実践交流会や研究会・研修会を充実させております。ここが学力向上の大きなポイントであると考え、コロナ禍ではありましたが、今年度も3つの小中学校の公開研究会を実施することができました。

「特定教科集中対策事業」では、中学校の数学において課題が見られます。小学校で偏差値50以上取っていますが、中学校で40台に落ち込むということですので、個別支援を行うための支援員4名を配置。また、中学校では、3年間のゴールとして高校につながる英語の学力をつなげていかなければなりませんので、英検3級取得を目指した英検受験対策講座等を開催しております。

併せて、小学校で今年度からスタートしました教科としての外国語科にも対応するため、ALTを3名招へいしております。

学習指導要領が改訂され、「何ができるようになるか」ということを求められる時代となりました。知・徳・体をバランス良く育成していく中で、学力の部分につきましては、学校教育課が担うべきものと自負しておりますので、引き続き学校を応援して参りたいと思えます。

○市長

ただ今、報告事項(1) 遠野市小中学生の学力及び学習の状況を非常に分かりやすい資料の中で報告がありました。

ところで、この内容は既に定例会で委員の皆さまには示しているものですか。

○学校教育課長

令和2年度のデータは今回が初めてです。

○市長

では、これは教育委員会でも報告していないもので、この総合教育会議の中で市民に向けて報告ということでしたので、ただ今の報告、説明を聞いて、委員の皆さまのそれぞれの意見等ございましたら、ご発言をお願いしたいと思います。報告ではありますが、感じたままの意見をお願いいたします。

○千田委員

私の意見を述べさせていただきます。

学力向上ということで、小学校中学校の先生方、学校公開や学校懇談会を通して学校を見学することがあったのですが、先生達、学校は本当に良くやっているなと思います。ただその一方で、この学力向上というのは学校だけが頑張れば良いものではないので、子どもたちがああいうふうになればいいなといった憧れを持つとか、地域が勉強しないとねというような雰囲気が必要だと思うので、学校だけに求めるのではなくて、家庭と地域が一体となって学力向上に取り組む必要があると思いました。

学校公開や研究会などがあるのですけれども、先生達もそのための授業ではなく、普段から、公開とか研究とか関係なく、子どもたちのためにどうやったら分かりやすく伝えられるかということ、本当にできているのか検証も必要という気がいたしました。

○市長

分かりました。

では、角田委員。

○角田委員

長く学力向上の結果を見てきて、中学校の学力に期待する数値が低いというのが非常に気になったところで、改善していかなければと思います。

今回、はじめて、知能検査と学力の相関関係のデータが示されまして、すごく興味深く見させていただきました。

その内容をお聞きしたところ、知能というのが必ずしも生まれ持って得たものだけではなく、その後の生活環境、例えば、家庭の中での親のしつけであるとか、家庭学習であるとか、そういう生活そのものに影響があるという話を聞きましたので、この学力を向上していくという相関関係で見ますと、比較的低い知能に対して、学力を発揮している子どもたちが多いということは、底上げをしていくために就学以前から家庭学習とか家庭での子どもに対する

教育とか生活習慣、そういったものをしっかりと指導していくことで、将来的な学力を向上させることにつながるのではないかと感じました。

○市長

はい。では、和子委員。

○菊池和子委員

今、お二人が言われたことは本当に私も賛同するところです。

教育委員会のスタンスとして、ここにあるように全国に比べてということではなくて、本市で頑張っているところというのを捉えるということがすごく良いなと思います。NRTとか知能検査の部分についても、市が負担して行っているというのは全国にはあまり例がなく、遠野市は真摯に取り組んでくださっているなと感じています。

先ほどお話しがあったように、アンダー・アチバーという、もう少し頑張れば伸びるといふ下の子どもたちを救おうとに捉えているというのはすごく良いなと思います。上の子どもたちも、さらに色々な能力を持っている子どもたちがたくさんいると思いますので、その子どもたちを伸ばす手立てというのもこれから大事にしていきたいと思っています。

○市長

はい。では、菊池崇委員。

○菊池崇委員

今、3人の委員の皆さまが言われたことそのままだと思います。

また、説明にもありましたとおり、今年に限って言えば、コロナの影響があったのかなと思います。教育委員会として、一人一人の子どもをいかに伸ばすかというスタンスで頑張っているということは説明を聞いておりますし、その方向で、私としては良いと思いますので、引き続き、学校と市教委を含めて、一人一人の子どもたちの学力向上の環境を整えていくことが良いことだと思っています。

○市長

今、4人の委員の皆さまから報告に対するコメントをいただきましたけれども、課長の方から、委員の皆さまの意見に対するコメントと最終的にそのコメントを踏まえ教育長からこの問題に対して、どう今後取り組むかということについてのコメントをいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

では、4人の皆さまのコメントを踏まえて、総括的なコメントをお願いいたします。

○学校教育課長

ご意見ありがとうございます。

第1回の総合教育会議の場で、私から「今年度はどの子どもも一歩伸ばします」ということをお話しいたしました。その信念は変わらず、今後も先生方と一緒に子どもたち一人一人の力を伸ばしていこうと考えています。

アンダー・アチーバーという言葉が出ましたが、この子どもたちにつきましても、まだまだ伸びる可能性のある子どもたちであると捉えております。一人一人に目を向け、どこが弱いのか、どこが強みなのかということを生方にご理解いただき、個に応じた支援を行いながら、伸ばしていきたいと思ひます。

本日お示しした数字では見えないところではあります、必ずやこの取組が来年度の結果につながってくる。そして、子どもたちの将来につながってくるものと信じております。

引き続き頑張つてまいりますので、よろしくお願ひいたします。

○市長

では、教育長から。

○教育長

学力向上というのは本市に限らず、全ての自治体の共通の課題になると思ひます。我々の目指すところ、本市においては、遠野市全体の児童生徒、それぞれ標準学力検査でいうと50以上を目指すというのは、そのとおりで変わらないところです。

現状としまして、小学校は上回つていて、中学校はもう一歩というようなところ。学力を見るときにこの数値だけではなくて、知能と比べるという考え方の根底にあるのは、遠野の子どもたち一人一人の状況、その能力にあった学力を最低でもつける、プラスして伸ばすということがその根底にあるところです。

よつて、いろんな分析を通しながら、不足しているところ、例えば、家庭での時間の過ごし方、家庭学習とか生活習慣とか、各委員がおっしゃられたところ、全くそのとおりでございしますので、そこにどのように手を入れて、ご協力いただきながら、市全体で伸ばしていくかということが、今後取り組んでいくべきところと考えています。

○市長

それでは、学力向上については、ここ10年来の市政の大きな課題でもあります。やはり、しっかりとこれに向き合いながら、今この中にもありますとおりで、学力と知能という、アンダー・アチーバーというのですか、この辺のところを見ますとなるほどという事でありまふ。このような一つの課題に対して、しっかりと向き合つて環境整備、学校現場を応援してまいらなければならないと思ひますので、何よりも子どもたちにとって厳しい時代の中でたくましく生きる力を持つてもらわなければならないと思つております。この課題にしっかりと向き合つていただきますように、よろしくお願ひいたしまして、報告事項(1)は、終わらせていただきます。

(2) 高校進学に関する意識調査について

○市長

では、報告事項(2)の方に入らせていただきます。

去る8月4日でありましたけれども、県の教育委員会から連絡がありました。「遠野高校と遠野緑峰高校は2校体制を存続させます。高校再編計画の前期計画に盛り込まれておりま

した遠野2校体制を1校にという計画については、前期計画の中から除外いたします」という話でありました。

その中であっては、地方創生の流れを汲みながら、定員の半数割れということをしつかりとクリアしたということもあるので白紙に戻します、という連絡であったわけで、それでよしとするわけにはいかないのです。

また、少子化という一つの流れの中であって、小規模校をどのように維持していくかというのも大きな課題であります。

今、毎日のように、それぞれ県内の小規模高校の魅力化が、どんどん発信されてきております。すごいな、頑張っているなという地域がどんどん出てきております。そういった中におきまして、この2校体制が存続することになったからよしとしない。粘り強く新たな高校のあり方というものを探求めていかなければならないと思っております。

進路に関するアンケート調査が出てきておりまして、これについて、来年の3月に卒業する中学生の進路志望校の現状はどうなっているのかということの報告があります。委員の皆さまには、しっかりと受け止めていただきながら、地元高校の更なる充実強化、新たな制度に移行する。そして、子どもたちの元気な姿の中から遠野の元気をいただくような形にもっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

○小中高連携推進監

始めに本年8月4日、県の「新たな県立高等学校再編計画」前期計画において統合を延期していた遠野地区（遠野高校・遠野緑峰高校）については、統合対象から除外するとの発表がありました。

平成28年から市民一丸となって「両校存続」を目標に積み重ねてきた様々な取組が報われ大きな成果を得ることができました。

御協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

それでは高校進学に関する意識調査の結果について報告いたします。

この調査は、今年で5年目の調査で毎年6月に中学2・3年生とその保護者を対象に実施しているものです。

1ページをご覧ください。3年生とその保護者の5年間の高校進学希望をまとめた棒線グラフです。

青が市内、オレンジが市外進学希望になります。

3年生の状況は、市内希望の割合が45.5%と前年比 9.1ポイントの減少となっております。一方、3年生保護者にあっては、市内進学希望が64.8%と昨年比 7.9ポイントの増となっております。

2ページは、同じく中学2年生とその保護者の状況です。

3ページをご覧ください。2年時から3年時の生徒及び保護者の進路希望の変化を見たものです。

生徒においては、市外希望が昨年2年時の40.9%から3年時には54.0%と13.1ポイントの増、昨年の増加 3.7ポイントと比較し、市内から市外希望へ変化した生徒の増加がみられます。

一方、保護者においては、市内希望が64.8%と前年比で 1.5ポイントの減にとどまっている状況にあります。

4 ページをご覧ください。高校選択の基準については、生徒においては「進学実績」「部活動」「就職実績」「学力見合」が上位を占めております。一方、保護者にあっては「本人の意見」「自己実現」を尊重しながらも「通学のしやすさ」も判断基準の上位を占め経済的負担感を意識した傾向がみられます。

5 ページに進みます。高校を選択するうえで困ることでは、3年生、保護者共に「将来就きたい職業が決っていない」「高校のことがよく分からない」が昨年同様に上位を占めており、将来就きたい職業のイメージが無いまま進学先を選択する傾向がみられます。

6 ページの進学させたい高校の情報を「よく知らない」保護者が、6割もいる状況にあること。高校の情報を「高校生の親から入手する」が21~34%と最も多く、高校生を持つ親の学校の評価に関する口コミが大きく影響していると共に、高校説明会やホームページの情報提供の仕方にも工夫が必要と考えられます。

7 ページの保護者の記述回答で多かったものでは、知りたい情報では「進学・就職実績、偏差値、学校の魅力・特色や雰囲気」「カリキュラムや資格取得」「生徒へのサポート体制」について、経済的負担では「通学・下宿費用」「教材費や入学時の初期費用」「部活動費用」「捕食費を含む昼食費用」などに負担感を抱いております。

8 ページのアンケート調査結果を踏まえた課題への対応についてです。「高校に関する生徒・保護者への情報提供」においては、高校生の中学校での出前講座等の中高生の交流事業や保護者と高校の校長との懇談会の開催など、今後も継続・強化してまいります。

「将来就きたい職業のイメージが無いまま進路決定」となっている対策として、市教育研究所「キャリア教育部会」が研究を進めてきた遠野市版キャリアパスポートを活用し、学年に応じた「将来に向けた職業観の醸成」と「進路選択の意識啓発」を図り、「ふるさと教育」を柱に小・中・高校が接続した「新たなキャリア教育」に取り組めます。

9 ページです。「保護者への経済的負担の軽減」については、保護者から好評を得ている通学支援補助金の周知に努めるほか、各種資格取得支援補助金を継続してまいります。

また、高校への学校給食の提供と掛かる費用の就学援助費支援等のあり方について調査・検討を進めてまいります。

「高校生が地域課題に取り組むプログラム」への支援については、遠野高校の「新しい『遠野物語』を創るプロジェクト」や遠野緑峰高校の農業クラブの各プロジェクトなどは、全国的にも大きな評価を受けております。こうした高校生の地方創生に関わった貴重な活動をさらに支援してまいります。

また、今年度から始まった「県外からの入学生の受入」に必要な受入体制の充実と共に全国に向けたPR等も含め、地方創生推進交付金を財源として、高校魅力化サポート事業を展開してまいります。

○市長

ただ今、調査集計結果というかなり厚い資料もありますし、コンパクトにまとめたもので高校進学意識調査というものについて、説明がありました。

この問題は、少子化という問題、それに伴って人口減少というものにどう向き合っていくのかということにおいて、高校のあり方、それが今岩手県でも大きく問われている。岩手県だけではない、全国的に見てもそれが問われているという中で、国の制度・仕組みが第2ステージを求めているということに私はなるのではないのかなと思っております。そのためには、まず地元の高校をしっかりと魅力あるものにしなから、地元高校と高校生とタッグを組みながら、地域の活力を見いだしていくというところが地方創生の理念にも合致をするということになるのではないかなと思っております。

これから説明があります総合計画の中にも高校魅力化といったものが、大きなテーマとして位置づけてあります。子どもの志と保護者の意向、遠野市は小さな自治体であるが、元気な活力のあるものを一つの地域経営として行っていくためには、高校生もパートナーの一人であることを踏まえた中で、対応していかなければならないと思っております。

中学生の方にどのようなアプローチをしていくのか、どのような進路指導の中で、送り出す方、受け入れる方、この辺のミスマッチに対してしっかりと取り組むことが大事ではないかなと思っております。このような調査をどう受け止めながら、今後の活動にどう生かしていくのかということになろうかなと思っておりますので、今の意識調査の報告につきまして、委員の皆さまのコメント、意見を伺ってまいりたいと思っております。

菊池崇委員、角田委員、菊池和子委員、千田委員の順でお願いいたします。

○菊池崇委員

私の子どもも遠野高校に入っていて、今1年生ですが、自分が将来どうなりたいかというのが、この調査からも見て取れるように、自分の息子も決まっておられません。

子ども自身が将来的にどういう職業を選んでいくかというのに繋がるのが高校生活だと思っております。そこで、いかにこの高校に入って、どういう魅力があるのか、どういった将来が開けるのかというところが、子どもにとっても親にとっても重要な関心のある事項だと考えております。

高校魅力化や遠野の高校に入っただけのために、色々な活動をしてきた中で、それなりの結果というのは出ていると思います。今年に限っては若干数値が下がっているところもありますけれども、遠野がいかに魅力的なところか、その後どうつながっていくかというアピールをし続けるのは大切なことだと思っております。

また、教育の中で、子どもたちがどうやって生きていくかということを中心に教えていく、提示していくということも大事だと考えております。

遠野に住んでいる人間として、遠野の高校へ入ってくれて、そこで育っていくのを見るのはとても嬉しいことなので、引き続き、私を含め、そういうことを続けていきたいと思っております。

○角田委員

今回の調査結果を見て、最新のところで中学校3年生の市内進学希望の割合が45.5%。昨年が54.6%に比べて下がったということで、原因がどこにあるのかなと気になりましたが、サッカー選手権で負けたのが大きかったかと思っております。遠野高校に関していうと、サッカー以外の高校としての魅力をすぐにでも作っていかなければいけないかなと思っております。

今回の結果の中で、高校について知るための情報源ということで、保護者の皆さんが、高校に入っている保護者からの情報を非常に大事にしている。高校生の進路選択においても、保護者の考え方というのは大きいと思いますので、保護者に地元の高校に進学してほしいというような意向を増やしていくのが大事だと思います。

高校生を持つ保護者から聞ける方はいいのですけれども、そうでない状況もあるでしょう。遠野高校も遠野緑峰高校も進学に対して、あるいは就職に対しての手厚い支援は好評です。その卒業した保護者、私の子どもたちも遠野高校卒業しているわけですが、進学の時にいろんなアドバイスをもらって良かったというような評価も効果があると思いますので、ぜひ高校を卒業した子どもたちの保護者の意見もこれから進路選択に活かしていくことによって、評価を上げていくことができるのではないかなと感じました。

○菊池和子委員

1つ目は、子どもたちが小さい時から社会とつながっていることが大事なのではないかと思います。キャリア教育というのはそういう意味で、人とのつながりとか、自分の将来のこととか色々考えていくわけですが、小さい時から子どもたちが必要とされている、遠野市に必要とされている、社会に必要とされているという有用感を持つことが大事なのではないかと思います。子どもたちがお祭りに参加というのは欠かせないものですし、運動会にしても何にしても、子どもたちは参加するのは当たり前と、他の県の子どもたちの調査よりもそういうところが高くなっているのは良い傾向だと思います。

小さい時からの社会との関わりの中で、私が生まれ育った遠野市は将来どうなるのだろうかとか、私がここでこういうことをやることによって将来どうなるのだろうかとか、そういう気持ちが芽生えてくるのがすごく大事なのではと思います。

なので、遠野高校や遠野緑峰高校に進学することはもちろん良いことなのですが、他に出ていっても遠野市に心を寄せるとか、そういう子どもたちを作り上げていきたいと思いました。

2つ目は、今、コロナ禍なので、保護者が経済的負担というか、そういう面で市外に通わせるのはすごく大変なことだと思っています。今まで以上に手厚い支援をお願いしたいと思います。

○千田委員

私もまだ一人残っておりますので、保護者の立場です。

将来就きたい職業が分からないというのは、我が子もそのとおりです。学校から「将来就きたい職業は何ですか」とよくアンケートがきたのですが、親子でよく悩みました。

その背景というのは、子どもたちが幼少の時からキャリアモデルとかロールモデルを見ていない。小学生の時に大学生と触れ合うとか、高校生と触れ合うという機会がお祭り以外にまず無いので、高校生って大学生って何をやるのだろう。職業、サラリーマンって何をやるという具体的なことが全然イメージできないのかなと感じました。

子どもたちから見ても、遠野市の職業って何があるだろうか、高校を出た後のイメージがつかないまま、なんとなくこっちの高校に行ってみようかという選択になっていたような気がします。

そういった地域社会というのをまずは作っていかないといけないということ、知らないことは選択できないので、大学生が何をするのか、例えば公務員の方も何をするのかというのを、もう少ししっかりとキャリア教育的なところを進めていかないと進学とかにはつながらないのかなと自分の2人の子どもたちで思いました。キャリア教育的に将来何になりたいかということ親子で話し合いたいなと思います。

以上です。

○市長

今4人の委員の方から、報告を受けてのコメントをいただきました。

この表をみると、2年生から3年生の生徒の変化、2年時から3年時の保護者の変化という数字、そこにコメントが2つ書かれています。高校を選択する上で困ることで、将来就きたい職業が決まっていない、高校のことがよく分からないという2つのコメントがこの中にあります。

せっかくの資料でありますから、これに基づいて3年生の意識、保護者の意識についてまとめた中で、率直に感じたことをこの中に書かれていると理解をしていますが、この中から我々が何を読み取ればいいのかということ小中高連携推進監からコメントをよろしく願います。

○小中高連携推進監

進学に関して、中学生はどちらかという行動範囲が広がっているので、市外に出てチャレンジしてみたいという気持ちが現れているという感じがします。保護者の方も、そういった子どもの意欲を支えたいという考え方がある中、一方では、市外等に通学させるにはそれなりの費用負担がかかるという意識がそこにあると思います。

特に高校に関してみると、高校の保護者の話を聞いたものの、それだけでは高校の情報がまだまだ分からないというような意見等も寄せられております。ここ3年ほど高校の校長先生が各中学校のPTA・保護者にお集まりいただいて懇談する機会を設けておりますが、そういった機会をさらに充実させて、できるだけ直接高校の情報をお伝えできるようなことを考えていきたいと思っております。

○市長

これも本当に長い経過を見ながら、この課題に向き合ってきているというのは皆さんもお分かりだと思います。今10月であり、進路指導が本格的に始まってきていると思っております。この調査結果等を見ながら教育長からも、現場とどう向き合ったらいいのか意見と考えを示していただきたいと思っております。

○教育長

学校のあり方としては、従前は特色ある学校という言い方をしてしまして、現在は魅力ある学校となってきました。これは主が違います。

特色ある学校というのは、学校が特色を作ることであり、魅力ある学校づくりというのは、生徒にとって、子どもにとって魅力ある学校を作るといいうようになっていきます。

遠野市内の2つの学校については、プロジェクト活動等を行いながら、それぞれの学校の魅力を発信して、全国的な評価を受けているところでもあります。

市長が冒頭お話したように、再編計画前期から除外になったという原動力は、今日の資料でいうと2枚目のスライドになると思います。

市内の高校に進学させたいという中3の保護者の数が増えているというのがあります。いわゆる統合の署名活動で一番きついのが集まった。つまり、2つの学校は市民に支えられている学校であると認識を持っているところです。

課題とすればその魅力をどのように発信するかというのが1点。

それから、プロジェクト活動等で高校生と小中学生との活動というのはある程度はあるのですが、これをどのように広げていくか。高校生がどんなことをしているのかということを知っていただくことが2点目。

3点目は、遠野市の色々な支援、他の学校にはない様々な支援がありますよというようなものをもっと売り出してもいい。

この3つが柱になってくるのではないかと考えておりますし、そのご支援等もいただきたいと考えております。

○市長

これもいずれは、子どもたちの志と保護者の希望をどのようにしっかりと噛み合わせるかといった、送り出す方の中学校、迎え入れる方の高校、その迎え入れる方の高校も魅力化という中で懸命に頑張っている。

小規模校と言われる高校については、まさに懸命に魅力化に取り組んでいる西和賀高校、九戸高校、軽米高校、葛巻高校、本当に目覚ましい活躍をしているものが随所に発信されているとともに、生徒を奪い合うようなことではなくて、やはりしっかりとした分母の見直しをしながら、小規模校のあり方を位置付けるということをこれから考えていかなければならない。そこにたどり着くには、一定の期間が必要になろうかと思っております。この歩みを止めるわけにはいかないと思っております。更なる魅力化というものに向き合っていかなければならないと思います。

今の推進監と教育長の方からのコメントを踏まえて、委員の皆さまにさらに精度を上げる意見等があれば、ご発言をお願いいたします。

○千田委員

1つ言えば、最後の資料に各種資格取得支援補助金（遠野緑峰高校生）とあるのですが、遠野高校の資格支援というのはないのでしょうか。例えば、英検ですとか、いろんな資格があると思うので、そちらの方もお願いしたいと思います。

○小中高連携推進監

遠野高校も資格支援制度は活用できます。毎年度、翌年度の当初予算に向けて、どういったことにどれくらい取り組みたいかといった調整しておりました。さらに遠野高校の希望を確認した上で必要であれば、その予算のやりくりの中で対応したいと思います。

それから、1つだけ修正させていただきますが、今回の2校統合の計画撤回は前期計画を引きずっているのですが、後期計画においても統合しないことが確認されておりますので、それを付け加えさせていただきます。

○市長

悩ましい課題であることはそのとおりですが、ひとつエピソードを紹介します。

ついこの間歩いておりましたら、ある方と会いました。子どもさんが中学校3年生だったと思いをかけました。そして、話をしておりましたら、子どもには将来こういう仕事に就きたいという夢がある。そのためには市外の高校を自分では進みたいと言っている。しかし、市内2校体制存続で頑張っていることを聞いている。なんとか自分の子どもも地元の高校に入りたいと思うのだけれども、なかなかそれが。

本当に悩ましい話です。私はその中で救われたのは、その子どもさんが自分の志をしっかりと持っているということには、やはり逆らえない。それを叶える、押してやるというのが、やはり基本ではないかなと思うのですが、この表には、将来就きたい職業が決まっていない、という3年生も保護者もそれに○を付けているわけです。この辺の所をどう思っているのかというところですか。進路指導の方も。しかし、中学校3年生にそこまで求めるのはどうなのかと思うところもあります。その辺どうなのだろう。

そのエピソードを紹介したのは、子どもさんを持っている保護者もなんとか自分の子どもも地元の高校に入りたいと思っている。しかし、子どもはこういう夢を持っていて、合わないのだという話をしているわけです。まさにこれですね。進路指導のあたりはどうなのか。

○教育長

市長がおっしゃるように、その子が意思を持って、ここに進みたいと思っているものがあれば、それを押してあげるのが家庭であり、我々の役目だと思っています。

一方、市内にどんな産業があるかとか、どんな企業があるかとか、そういうことを知らないまま、イメージで追っているという生徒が多いことも現実としてあります。その対策として、今行っているのはキャリア・パスポートというものを作っています。小学校中学校で作っているのはどこもやっているわけですが、高校とも連携させて、小中高がいわゆるキャリアというもので1本縦の線を入れて、遠野ではここまでやっています。そこから、自分の夢が広がっていくのは後押しするべき。その上で、遠野でこんなことをやっていきたいという声を受け入れて育てあげていくというのが、遠野の役割だと思っています。

○市長

小中高連携推進監の役目が大きいですね。

○小中高連携推進監

はい。キャリア・パスポートの部分では、市の産業部商工労働課とも連携して、今、市内企業が小中高校生にどのようなキャリア教育の部分で協力できるのかという調査を行っています。協力体制を組んでもらうことで、充実したものとなるよう進めていきたいと考えています。

○市長

こういうデータを持ったこと、様々の調査をしたものをこのようにしっかりと持ったことは強みなわけです。こういうデータ、ただ感情論だけでもの言うわけではない。単なるヒステリックにものを言うわけにはいかない。データの下で冷静に向き合うということが、教育現場も求めているものではないかなと思っているわけであります。

今お話しがありましたとおり、将来について、この遠野の場合はなかなか産業集積というのがそんなに厚いわけではない。大都会とは違い、選択肢が極めて限られた中にある。子どもさんたちの夢なり希望なりの実現について、対応できるだけの環境が遠野にあるだろうか。しかし、コロナ禍にあっては、まさにテレワークであるとか、オンラインであるとか、いろんな形での新たな仕組みを求めてきている。そして、企業の地方分散が進むのではないかと言われてきている。

そして、コロナが突き付けてきているのは、まさに極限状態の中で、本当に人間らしい生活ができるのかといったことが問われている。今こそ地方の時代だと言われている。そういう時代背景をしっかりと教育現場の方でも受け止めながら、子どもたちと向き合い、保護者の方とも真摯な議論を交わすということが大事なのではないかなと思いました。その辺を踏まえながら、このデータを活かしていただきたいとお願い申し上げたいと思っております。

以上、委員の皆さまからの報告事項(1) (2) につきまして、それぞれ意見交換しましたので、この報告事項につきましては、これで終わらせていただきますけれども、(1) の学力向上、(2) の進路指導について子どもさんたちとの向き合い方、遠野市としての課題でありますから、委員の皆さまにも更なるご協力の方を私の立場からもお願い申し上げます。

4 協議及び調整事項

(1) 第2次遠野市総合計画後期基本計画案（教育委員会及び子育て関連）について

○市長

次第4の協議・調整事項に入らせていただきます。協議・調整事項でありますけれども、冒頭申し上げましたとおり、令和3年度を初年度とし令和7年度を最終年度といたします、第2次遠野市総合計画後期基本計画を策定するという作業のカウントダウンに入っております。11月2日には、総合計画審議会から最終答申をいただくことで所定の手順を踏みながら作業を進めております。

先ほどの挨拶の繰り返しになりますけれども、明日、庁内の部長級で構成しております総合計画の策定委員会を開催することといたしております。その中には総合計画審議会の委員の皆さまからも、かなりの数の意見をいただいております。大綱ごとに分科会においても確認をしています。これもかなりの意見をいただいております。それを今事務局の方においては、総合調整を行っているということになっております。

その調整の一環といたしまして、この総合教育会議におきましても、教育・子育て、あるいは文化振興といった分野で、大綱4と5について、これからの5年間という中で、これだけの厚い資料の中に書かれております。

教育、市民センター、文化、子育てという順序で、どのように総合計画の中にこれらの課題が位置付けられて、その中で委員の皆さまの意見を踏まえてと、この会議が位置付けられていることでもありますから、順次、教育部長の方から資料に基づきまして説明を申し上げますので、説明があった後に意見交換をしたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、どうぞ。

○教育部長

それでは、資料No.3「第2次遠野市総合計画後期基本計画案」により、説明します。なお、この資料はあらかじめお目通しいただいておりますので、概要の説明とさせていただきます。

また、資料の内容は、10月13日現在のものであり、この後、市議会に提出されるものであることから、変更があることをご了承願います。

最初に 142ページをご覧ください。大綱4ふるさとを育むまちづくり 1ふるさと教育の推進 (2) 学校教育の充実の施策の方向として、5項目を掲げております。

144から147ページをご覧ください。前期基本計画から見直しを行ったもの、新規の施策の主なものです。

- ① 教育内容の充実では、学校運営協議会の設置の推進、人材育成の推進、キャリア・パスポートの活用、GIGAスクール構想に基づくICT環境の活用。
- ② 教育環境の充実では、学校施設の計画的な修繕や学校資料の保存。
- ③ 学校給食の充実では、食育の推進や給食内容の充実。
- ④ 学校と家庭、地域社会との連携では、社会や地域との関係性、あるいは学び場の構築。
- ⑤ 高等学校への支援では、市内高校の魅力化への支援。

となっております。

今回は、この中から特にご意見をいただきたい項目が2点あります。

1点目は、147ページにあります児童生徒の学力向上に係るまちづくり指標。

2点目は、187ページにあります主要事業の実施計画の搭載に向けた学校施設の整備計画です。それぞれ資料を用意しております。

資料No.4「みんなで取り組むまちづくり指標「標準学力検査偏差値」の設定」についてをご覧ください。

小学校、中学校ともに、標準学力偏差値をまちづくり指標としており、この指標の設定につきまして、総合計画審議会や、同分科会で多くの議論がされました。

総合計画審議会から提言された内容としては、中学校の偏差値48.8の指標では低いのではないのか。小学校が52.1であるのに対して、中学校が50.0を下回っている。中学校の指標も50.0以上が望ましいと考えるがいかがかという内容でした。

このことへの対応としては、本日の報告にもあったように、学力向上に向け、審議会からの提言も踏まえ、本文中に、「最終的に目指す目標としては、小中学校ともに学力偏差値50以上を目指している」旨を記載し、まちづくり指標は最終目標達成のためのステップと位置づけ、今回設定する指標の確実な達成を通して、その先の目標を達成していきたいという考え方です。

資料の中段には、指標設定の考え方を記載してありますが、小学校については5年間の平均が50を上回っているため、現状維持としながら、学力向上を図る。中学校については、中長期的に改善を図りながら標準を目指していくという考え方から、前期の指標から0.2ポイント増の設定とし、小中とも前期基本計画5か年の平均値により指標を設定しております。

今回、特に、この指標設定の考え方、学力向上に向けた確実な取り組みについてご意見を伺いたいと思います。

次に、資料No.5市総合計画後期計画策定に向けた小中学校施設整備計画(案)をご覧ください。

この計画は、総合計画後期計画における主要事業実施計画の登載に向け、教育委員会事務局と総務企画部管財担当とで、小中学校の校舎や体育館などの学校施設を点検し、様々な視点から効率的かつ効果的な修繕、大規模改造、改築の計画を策定しているものです。

3ページからは、各学校の校舎、体育館、プールの建築年次の資料。

6ページは、建築、改造年度を古い順に整理した資料。

7ページからは、これらの状況等を踏まえて、学校施設等整備プランを検討したもので、8ページから11ページまでは校舎整備プラン、優先順に小友小学校、遠野西中学校、鱒沢小学校としてあります。

12ページからは15ページまでは、体育館のメンテナンスで、優先順に達曽部小学校、小友小学校、遠野西中学校としてあります。

16ページから19ページまでは、プールの整備プランで、鱒沢小学校、遠野小学校、土淵小学校としてあります。

20ページから22ページまでは、校庭、外構等の整備プラン。

最後の23ページは、後期5か年の実施計画への登載事業として整理した資料になります。

児童生徒の安心安全な環境整備に向け、総合計画に基づきまして確実に整備を行ってまいります。

教育委員会からは以上になります。続きまして、市民センター所長からお願いします。

○市民センター所長

市民センターからは、協議テーマの3「地域教育協議会の運営」、4「アスリートスポーツの推進（児童生徒の競技力向上）」について説明させていただきます。

まず、3「地域教育協議会の運営」についてですが、「大綱4 ふるさとの文化を育むまちづくり」の中で、146ページの④学校と家庭、地域社会との連携の中で示しております。

本文では、市内小学校単位に組織されている地域教育協議会と連携しながら、学校、家庭、地域の密接な協力体制のもと、児童生徒の健全な育成に努めるとしております。地域教育協議会の目的は子ども、保護者、学校、地域、行政の5者の連携により、地域教育力を向上させ、子どもたちの教育課題の解決を図ることにあります。そのために、学校においては開かれた学校作りを推進し、地域教育協議会と情報交換、連携を図ることになりますし、一方、地域でも学校を核として、地域全体で子どもたちを育てる観点から、地域内の関係機関・団体が学校の運営方針、学びフェストを情報共有し、子どもたちのためにできることを考え行動することになります。

この計画は、前期からの継続でありまして、前期では主要な取組の、共通課題として「情報メディアの上手な付き合い方」、共通取組課題として「早寝早起き朝ごはん」、地域の教育課題として、「読書活動の推進」、「挨拶運動」に取り組みました。後期においても、この事業を継続したいと考えているところであります。

なお、学校運営協議会、コミュニティスクールとの関わりについては、学校側が運営する学校運営協議会に対しまして、地域学校協働本部としての役割を担うのが現在の地域教育協議会であると捉えております。地教協は、各学校単位イコール地区センター単位にありまして、地区センターが事務局となり、現在活動しておりますが、地区センターは新年度に指定管理者制度に移行の予定でありますので、地域教育協議会は各町の地域運営組織が事務局となりますが、そこを行政としてサポートしていくというかたちになります。指定管理協定の中に、地域教育協議会の支援業務を盛り込みまして事業を継続することにしております。

コミュニティスクールの設置目標が令和4年ですので、それに向けて、地域学校協働本部としての地域教育協議会の体制の整備が来年度必要ですので、それに支援を行ってまいりたいと思います。

次に4「アスリートスポーツの推進について」は、大綱2で示してあります。資料の87ページであります。

現状と課題ということで、87ページの中段に書いてありますが、アスリートスポーツの振興について、具体的には、89ページ「③アスリートスポーツの振興」ということで示しております。

児童生徒の競技力向上について、具体的には、市体協に加盟する種目団体の児童生徒の競技力向上のために行う練習指導の経費に対して支援を継続して取り組みたいと思っております。

指標としては、91ページNo.34、毎年2月に行っております遠野市教育文化振興財団の顕賞式、あるいは市体協の栄章の授賞式におきまして、受賞件数の毎年度2件増を目指す指標としております。

近年、顕賞式の子どもたちの頑張りは目を見張るものがあります。さらに支援をしていきたいと考えているところであります。

以上、2項目について説明をさせていただきました。よろしくお願いたします。

○市長

委員の皆さまに意見をいただくとすれば、担当部長として何をいただきたいか。

○市民センター所長

地域教育協議会については、今までの継続といいながらも、地区センターそのものが指定管理者制度に移行になります。そのことで地域も若干の戸惑いもありますので、行政としてどう関わっていけばいいのかという部分が私たちも悩みの部分でありますので、そのことについてご意見をいただければ有難いと思っております。

○市長

これから説明する部長さん方は、ポイントを絞って、発言、説明をしていただきたいと思います。

○文化振興担当部長

それでは、私の方から総合計画審議会の分科会で特に話題になったところ、これはやはりまちづくり指標の設定の仕方です。改めて説明させていただきたいと思います。

資料の 157ページをご覧ください。

分科会では、指標設定のNo.94博物館入館者数につきまして、横ばいの数値を示しましたが、委員の方から、入館者数が今年に入って増えているのではないかと励ましの言葉をいただきました。

実際のところ、今年になって新たにSNSを始めました。フェイスブック、ツイッターの効果があまして、昨年を上回る博物館の入館者がありましたので、No.94のまちづくり指標は、この5年間で少しずつ伸ばしていくこと。その方法としましては、博物館の企画展や特別展の魅力アップ、そして、SNSでの発信、これらを充実させて指標を伸ばしていくという積極的な指標の作り方にしております。

同じく、No.97、98、99の図書館の冊数です。これらにつきましては、当初はトータルの冊数で指標を示していたのですが、委員の皆さまから、人口減少や児童生徒数の減少により冊数が実際は減っていくのではないかと。人口減少や児童生徒数の減少に左右されず、児童生徒、又は市民一人当たりの数字にした方がいいのではないかとということで数字の捉え方を大きく変えました。一人当たりの平均貸出冊数とか、児童生徒一人当たりの平均貸出冊数ということで、これも徐々に伸ばしていくという数値の設定をしております。

こども本の森遠野が来年できるということになれば、本に対する楽しみとか関心も増えて、その相乗効果で連動することによって、図書館も伸ばしていくという考え方であります。

続きまして、160ページをご覧くださいと思います。

No. 104文化財保護に対する寄附件数とありますが、これは、千葉家住宅整備に対するふるさと納税を今取り組んでおります。昨年も600万円以上の寄附がありましたが、千葉家という歴史的文化的文化財の整備に対して、目的を持った寄附を伸ばしていきたい。千葉家住宅につきましては、令和9年度まで工事がありますので、その間PRに努めて、寄附金額、ふるさと納税を増やしていくという計画になっております。

次に162ページになります。

No. 106ですが、市史編さん、今年度既に現代版が発行されました。令和7年度までに計画的に4部、資料編、通史編、民俗編と順次計画どおりに発行していくというものです。

最後にNo. 107こども本の森遠野入館者数ですが、初年度どれくらいお客様がくるかどうか見当がつかないところですが、初年度1万人という目標を設定しております。遠野みらい創りカレッジも初年度5千人近かったので、それを上回る1万人ということで、これをどんどん伸ばして5年後には倍の2万人にしたいと。委員の皆さまから、安藤先生が譲ってくださる施設だから、どんどん伸ばしていく計画を立てるべきだという意見もありました。かなりチャレンジした数値ですが、5年間で倍にするということです。

こども本の森遠野は、日本三大本の森ということで、先週の情報ですと、神戸市もこども本の森神戸に決めたという情報が内々に入りました。これで、こども本の森が、大阪の中之

島、神戸、遠野と、日本三大本の森になるということで、積極的に数字も伸ばしていきたいとの考え方であります。

つきましては、この指標設定につきまして、委員の皆さまからご意見をいただきたいと思っております。

○子育て応援部長

最後ですが子育て応援部の方から説明申し上げます。

子育て家庭へのサポートの充実ということで、今回の総合計画に記載している主要なものを述べたいと思っております。

まず、88ページ、母子保健になります。

これは、「ねっと・ゆりかご」の充実、産前産後からのケア、サービスの充実。さらには、乳幼児の健診、育児相談についても指標に出しておりますけれども受診率を100%を目指してまいります。

それから、食育に関しましては、今年度策定しました「第3次遠野市食育推進計画（とおのっこプラン）」に基づきまして、乳幼児から学童思春期、身体の形成に応じた食育を推進します。

それから、歯の健康についてですが、後の方でも申し上げますが、歯科健診や口腔衛生に対しより徹底した指導をし、3歳児むし歯の有病率の15%を目指したいと思っております。

それから、107ページ子育て支援の推進になります。これは、既に令和2年から令和6年の5か年ということでスタートしておりますけれども、第2次とおのわらすっこプランに基づきまして、これを着実に推進してまいります。

中でも、子育て世代の子育てと仕事の両立といったところを家庭支援、地域とのつながりによる子育ての見守り、その他の支援と範囲を広げて、町ごとにコミュニティづくりを構築してまいりたいと思っております。

それから、妊産婦と小児までを含めたサービスの提供では、インターネットを活用した産婦人科・小児科オンライン相談等のサービスを提供してまいりたいと思っております。

それから、保育環境の充実についてですが、これも様々保育の受け皿がありますけれども、計画的な整備を行うとともに、それぞれ子どもさんの成長に応じて、障がい児の保育、休日の保育、病児の保育といった受け皿をきめ細かくニーズに合わせる形で提供できるような環境を整えてまいりたいと思っております。

ハード整備におきましては、児童館や児童クラブの計画的な環境整備を行いますけれども、保育施設、児童館、子どもの発達支援、親子の交流の拠点施設としてのわらすっここの城の整備構想、生活におきます児童虐待の防止、その他養育環境、発達障害への対応もいたします。

2点目のこどもの口腔衛生への指導ですが、88ページに戻りますが、3歳児のむし歯の有病率が遠野市はかねてから県内でも高く、3割を超して、高い時は50%と、むし歯の子どもが多かったということで、この予防徹底に努めてまいりました。平成29年度の調査の実態をみますと、25.95%ということで、県内33市町村のうち25位、14市の中では9位となっております。これは傾向として、都市部の生活様式、農村部の生活様式、様々そういうことが影響しているのではないかと考えられますが、都市部の方が成績が良いということで、これ

についても、教育委員会ではフッ化物洗口を昨年度から小中学校でも実施していただいております。

そういった中において、指標としては15%に持っていきたいと考えております。歯の口腔衛生における生活習慣の話もありましたけれども、ご意見をいただければと思います。

○市長

それでは、ただ今、策定作業を進めております第2次遠野市総合計画後期基本計画。令和3年度を初年度としなければならないものですから、2025年、25年問題というものがあるわけですが、そういったところを見据え、前期5か年の1つの成果を踏まえながら、後期5か年を着実に進むということが後期計画のテーマではないかと思っております。

そういった中でのキーワードは、今年の頃はなかったわけですが、コロナウイルスへの対応、コロナ前コロナ後といったことになろうかと思っております。コロナが突き付けている大きな悩ましい課題にどのように向き合うのかということも、問われているのではないかなと思っております。

また、昨日の新聞にも大きく活字が出ておりましたけれども、出生数、子どもさんの生まれる数が89万人という過去最低という数値、課題もいろいろ出てきているところにも、この5か年の中で歩むべき道筋と申しますか、計画をしっかりと示さなければならないと思っております。委員の皆さまの貴重な意見をいただければと思っております。

今、順次、教育部長、市民センター所長、文化振興担当部長、子育て応援部長から、それぞれの課題等につきまして説明をいただきました。それについて、限られた時間ではありますけれども、意見交換をしていきたいと思っておりますので、まず教育部長の方から説明のあった内容につきまして、委員の皆さまの忌憚のない、率直な意見をいただければと思っておりますから、まず、そこから始めていきたいと思っております。

これは、順序というより挙手でお願いしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

教育部長から説明のあった内容につきまして、お手元の資料を見まして意見をいただきましたらと思っております。

○菊池和子委員

まちづくり指標について、先ほどの学力向上の部分と重なるところもあると思いますが、最終目標として偏差値50を上るという最大目標にまとめられていますので、その前提となる小さなスモールステップを積み上げて、遠野の子どもたちに50を上回る偏差値になってほしいと思っております。そのために、いきなり50ということではなくて、先ほどお話しにあったようにアンダー・アチーバーの子どもたちを少しずつ減らして、全体として50に近づける。上の方の子どもたちにもさらに伸びてもらうようなかたちで持っていくのであれば、私は今までの数値からあまりかけ離れたものにならない方がいいのではないかなと思っております。

次の、校舎の方は、西地区というか、小さい学校の子どもたちの環境の方があまり良くないのではないかなと思っておりますので、鱒沢小学校、小友小学校に学校公開、学校懇談会で行かせていただきましたが、同じ市内に暮らす子どもが差のない教育条件で教育が受けられればいいなと思っておりますので、この計画どおりをお願いできればうれしいと思っております。

○市長

ありがとうございました。和子委員から非常に建設的な意見をいただきました。
その他、この項目についてありませんか。

○角田委員

学力向上については、前段のお話しでもありましたとおり、今中学校の偏差値が低いということで、例えば、3、5年後を考えたときに、今小学生の子どもたちが中学生になるわけですから、先を見据えた上で、基礎的な家庭の子育てであるとか、学習であるとか、本に親しむ、読み聞かせることによって、知能の部分を上げていく。やはり、地域で取り組んでいく、家庭環境で取り組んでいくということが今後の効果につながっていくと思いますので、そういうところに期待しています。

あと、2つ目の学校施設の教育環境整備については、営繕という言葉がありますが、最近この言葉が行政の中であまり重要視されていないということが気になっています。もともと、営繕というのは、例えば壊れた所を修繕するとか、剥がれた所を直すとか、雨漏りを直すとか、そういう単に修復のことではなくて、やはり長期計画で長寿命化を図っていく文化レベルの話だと思うのですが、古くは日本の歴史の中で長く建築を使っていくというのが地域の文化であるとか、国づくりとかまちづくりの基本となっている。

特に、学習環境の整備についていうと、やはりその場で育った子どもたちが地元の木材を使った学校であるとか、地元の職人が建てた学校が古びていって、雨漏りがしている環境で育っていくという、やはり、将来に対する地元で活躍していくという希望さえ失ってしまいかねない。教育環境というのは子どもたちの未来について保証していくことを考える上でも、長期的に見据えて、しっかりとお金をかけて、手を入れて、環境を整えていくという姿勢が大事だと思います。

今回、5年間長期修繕計画、長寿命化計画という中で、位置付けられたのは非常に有効なことだと思います。ぜひ、いろいろ見直しがあると思いますが、調査を行って進めてほしいと思います。

○市長

今、角田委員から貴重な意見をいただきました。その他ありませんか。

(なし、の声あり)

○市長

では、教育部長から、お二人の意見に対してお願いします。

○教育部長

ありがとうございます。

学力向上については、資料に示したとおり、審議会にも偏差値50という数値は出ていますが、教育委員会も同じ考えです。そこを着実にいくためのステップということで、今回の指標設定の考えで示したとおりですので、意見もありましたとおりにしたいと思います。

また、小中学校の施設等につきましては、当然長寿命化もそうですし、どうしてもお金がかかる施設でありますのでデータを示して、優先順位を示しながら、財政当局と理解を深めるようなかたちで、教育委員会でも情報を収集しながら確実な計画実施を進めてまいりたいと思います。

○市長

それでは、教育部長の意見交換の方はこれで閉めさせていただいて、市民センター所長の説明の方に入らせていただきます。

地区センターの第2ステージを中心に意見をいただければと思います。

○菊池崇委員

それでは、地区センター指定管理者制度についての意見をということでしたので、私なりに提案させていただきたいと思います。

土淵町で指定管理者制度に移行されたということで、土淵地区で進行中と聞いております。高齢化社会ということで、それぞれの地域で年を重ねる方がでてくる中で、いろいろ模索しながら、自分の地区で地区センターというものを運営していかなければならないということは、前向きに捉えて頑張らなければいけないものだと思っております。

しかし、地区センターがあって、上手く回っているところはそうなのですが、今もないところもありますが、地域の格差というか、差はあると思います。

その中で、市としての十分なフォローアップなどを考えていただきたいと思います。なかなか難しいことだと思いますけれども、一定のお金を預けて運営するとなると、例えば、若い人の雇用の部分が難しくなっていくのではないだろうか。若い人がそこに入ったとしても賃金アップは望めないわけですから、その辺のところを含めて。まだ、スタートしたばかりで、いろいろなことが出てくると思いますので、先の話になるとは思いますが、その辺のところの検証であるとか、前向きに取り組んでくるところは出てくるのではないのかという意見です。

○市長

今、崇委員の方から意見をいただきましたが、その他にありますでしょうか。

○千田委員

地域教育協議会というか、アスリートスポーツの推進ということで説明を受けたのですが、地域教育協議会そのものの活動があまり今まで見えないところもあって、小さな拠点を進めていくわけですから、小さな拠点による地域教育協議会というものに期待したいと思っております。

アスリートスポーツについては、近年小学生から全国大会とか、本当に素晴らしい選手が遠野からも出ていることを踏まえると、環境とか、他市に行って練習するとか、そういった

移動時間の短縮をすとかを考えると、地元で練習できるような環境を作るのも1つの手かなと考えますので、その辺も考慮していただければいいと思います。

以上です。

○市長

その他ありますでしょうか。

○菊池崇委員

今、千田委員が言ったことの付け足しになるのですが、スポーツに関しても、昔と違っていろんなパターンでやるスポーツ、例えば、地元ではなくてクラブチームに行くということもありますし、千田委員の意見は地元でやれる環境づくりということですが、遠くに行く子どもたちに対して補助とか、全国大会に関しても、学校の活動とか部活動とかに關しての補助はあるが、クラブチームとか合同チームであった場合の補助はほとんどないということもあります。ナイター設備とかに關してはわらすこ基金の中から捻出してもらえるとということもあって非常に助かっています。そうした補助の件も子どもたちのスポーツ環境を整えるということでも必要になってくると思っています。

○市長

では、角田委員から文化振興、子育ての方にコメントがあれば。

○角田委員

千葉家の今後の活用についてお話しがあったわけですが、令和9年までという長い事業で、ふるさと納税とか市外の方からの支援があるということですが、私は、文化財の活用の仕方というのは時代とともに変わっていくのだと思っています。特に、千葉家のような民家の建物は、ただ展示をすとか、資料を並べるといったことだけではなく、生きた施設として保存していかないと文化的な価値というのは伝わりにくい。そこで、生活あるいは生業、農業をしている生業といったものが息づいていってのはじめて、文化財としての魅力が市民にも伝わると思いますので、難しいことかと思いますが、愛着をもった方に実際に住んでいただくような、文化財の活かし方というのはできないのかなということを今後検討してもらいたいなど期待しているところです。

また、図書館の入館者数は今後伸びていっていただきたいです。子ども本の森がいよいよ来年以降完成して、子どもたちが本に親しむ機会が増えます。この効果が図書館の方に、絵本に親しんだ子どもたちが図書館の方でも興味を持って、自ら本をたくさん借りるという変化が現れると期待しておりますし、そういった連携もしていけるように展開していければと大変期待をしております。

○市長

ありがとうございました。それでは、市民センター所長の説明の地域づくりについて、崇委員と千田委員から意見をいただきましたが、その他にありませんか。

(なし、の声あり)

○市長

それでは、市民センター所長から、お二人の意見にコメントいただければと思います。

○市民センター所長

小さな拠点による地域づくりの改革について、お二人にご意見をいただきました。地域教育協議会のあり方について、どのように進めていったらいいのかということについて内部で協議していますけれども、地区センターが指定管理へ移行する大きな改革の中で、菊池崇委員からありましたが、地域が不安になる部分について、地域担当職員制度、地域貢献制度など構築し、地域に職員が入っていくような、庁舎内部の組織改革を進めようとしているところがあります。

地域がすぐに新しい改革のステージに立てるように、まず、土淵が移行したわけですが、他にも、他の地区も4月に入ってスムーズに移行できるように支援していきます。

そういった中で、コミュニティスクールが令和4年スタートとしておりますから、それに向けて、地域づくり連絡協議会の中の地域教育協議会が地域学校協働本部としての役割という部分についても示しながら、初年度を迎えたいと思っているところです。

アスリートの育成の部分で、地元の環境ももっと必要ではないかという部分について、昨年、国体記念公園サッカー場の人工芝の改修をしました。コロナ禍にあって、なかなか利用人数が伸びないというところもありますが、それでも利用実績は伸びてきております。その他の部分も総合計画の中で順次、計画的に総合的に、環境を整えていきたいということで調整しておりますので、よろしくお願いいたします。

また、子どもたちのクラブチーム・合同チームへの支援策が少ないといった意見だったと思いますが、それについては市体協や種目別協会と協議しながら進めていきたいと思っております。

○市長

これは、基本計画ですから、いろいろな状況でその都度見直しということはありません。これは貴重な意見として、これを受け止めてしっかりと反映させるように最後のつめの中で作業したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○菊池崇委員

スポーツについては、大人もですが、子どもを含めてなので、特に大人より子どもの部分で手厚くというか、大人は自分たちで行けると思っていますので、子どもたちを手厚くということでした。クラブチームなどで。

○市長

次に文化振興担当部長から説明のあった部分について、図書館、博物館、文化財、さらには今進めているこども本の森でありますとかについて、意見等ありますでしょうか。

○菊池和子委員

先ほどの説明の中で、指標を決めたのはこういうわけですということが、だいたい伝わってきましたので、すごく良かったと思います。他の部分についても、計画全体がそうなっているのだろうと。昨年こうだから今年はこのぐらいということではなくて、きちっとした長い目を見た、5年間を見た、そういう数値なのだろうなと思いますし、希望的数値でもあるなと思いながら見させていただきました。

市史の編さんについては、今、近代の作業をしているということで、これから遡って前の方の作業をするのは、本当に資料が少ない中で、大変だと思います。これは辛抱強くやっていただければ有難いです。遠野の子どもたちには遠野がこういうところだということ伝えていきたいなと思っています。そして、どこかに行ったときに、自分たちの市の歴史が語れるような子どもが増えればいいなと思います。

こども本の森ですが、1つ質問したいのですが、先ほど1万人という指標でしたが、こども本の森構想自体が分かっているつもりで分からないところがありまして、安藤先生が建造してくださった建築物そのものについて観光地というものと、中身の本の森を足して、沿岸復興というか復興に対してシンボリックなもの、3つ、子育てを入れれば4つくらいの要素があるような気がします。1番の目標というか、どこからどういう人たちを対象に1万人と考えているのかが重要になってくるのではないかと。どこに重きを置くのか、本の森構想の中で、そのあたりがしっかりしていると、これが沿岸とのつながりもでき、日本三大本の森のプロジェクトになるのではないかと思いますので、そのあたりを聞かせていただいて、応援していきたいと思っています。

○市長

和子委員から貴重なご意見、質問でありましたけども、その他ありますでしょうか。

○千田委員

私はまとめていきたいと思っています。千葉家にしても、市史編さんにしても、こども本の森にしても、遠野の遺産になるわけですから、遠野市民が誇れるものであってほしいというのが1つです。

もう1つは、それを通して、子どもたちに本物を見る目を養っていただきたいというのがあります。

というのは、やはり芸術的良さが強いというか、芸術というのは自分の目で見て、耳で聞いて、心で感じないと、誰かがこんなに素晴らしいものだよと言っても分からない。本当に本物であってほしい。いつの時代にあっても、皆がそこに行く、行きたいと思えるようなものであってほしいと思っています。それに対して、あれこれ迷うことはあると思いますが、最終的には本物であってほしい。

こども本の森に関しては、世界的に有名な安藤先生が設計してくださるわけですから、そういった機会は中々ないと思いますので、世界で活躍する本物の施設をとおして、子どもたちが、市民がやはりすごいな、違うなと心で感じて、子どもであったら、もう少し勉強しようとか、そういったものにつながっていくわけですから、市民が誇れるものにしていただきたいと思っています。

○市長

他にありませんか。

○菊池崇委員

先ほど2人の委員さんからもお話しありましたが、一流のシェフというのは小さい頃から良いものを食べて、舌を肥やす、舌の感覚を良くする。小さい頃から芸術に触れて、いろいろなものを見たり聞いたりすると、その子はそれだけ伸びるということもあります。

こども本の森も、千葉家も、もちろん遠野の文化遺産で、そういうものが身近にあるということが素晴らしいものであるということで、子どもたちがそれを見たり聞いたりすることで、子どもたちの資質というものが間違いなく向上すると思います。そこを遠野市としてはきちんと整備して、他の人にも見てもらうことも大事ですが、子どもたちに誇れるものを準備していくということが非常に大事な部分だと思います。

○市長

ありがとうございます。それぞれ3名から貴重な意見をいただきました。角田委員からは先に伺いましたので、これを受けて、担当部長の方から総括的なコメントを、どのように進めるかという方向性の方もコメントしてもらいたいと思います。

○文化振興担当部長

まず、委員の皆さまから貴重な意見をいただきました。

角田委員から、千葉家などの文化財の活用の仕方なのですが、令和元年に文化財保護法が改正になりまして、文化財を地域づくりや観光にいかすことを積極的に進めていくという方向性が示されましたので、千葉家活用を考えるため地域の方々が活動していますが、角田委員の案もそうでしたが、千葉家をもっと観光に活用して、例えば泊まれるとか、そういったことが可能かどうか分かりませんが、そういった方向で検討していき、貴重な重要文化財を積極的に観光に活かしていく方向で示していきたいと思います。

図書館と本の森の関係性において、本の森の方は基本的に貸出をしない、その場に来て読むということで、家には持って帰れないのですが、本を読む楽しみ、本に親しむ楽しみを知った子どもたちが、本好きになって家でも読みたいというふうになって図書館に通うということで、図書館と本の森が相乗効果で、連携できるように進めていきたいと思います。

和子委員から、指標について大変評価をいただきましたが、指標については努力目標的なものもあり、皆で相談して決めたものです。これに向かって頑張りたいと思っています。

市史に関して、歴史というのは将来の人のために残すものだと、歴史に学ぶことがすごく大きいということで、市史は令和9年まで古代からさかのぼって、遠野の歴史をまとめていきます。これはこれからの人、今の人のために遠野の歴史をまとめていくのですが、遠野というのはこういったところだということを知っていただけるように辛抱強くやっていきたいと思うので、よろしくをお願いします。

本の森について、指標の集めた方ですが、1万人を見込んでいて、1つは地域の子子どもたちが通ってくれるというものをベースにしております。あとは、安藤建築ということで、建

築を志す方々にとって安藤先生の木造建築というのは世界的にも貴重な建築になります。そういった方々で、コロナ禍でも建築の方々を含めたインバウンドを含めていらっしゃるといった方々もカウントしていますし、沿岸の子どもたちが本に親しむための場所といったものと東ねて、今回の1万人という数値にしております。1年目の傾向を見ながら、遠野の子どもたちが来てくれることをベースにしながら、この数値も検証していきたいと考えています。

千田委員と崇委員の意見は、同じような意図だと思うのですが、安藤先生が言っているのは、やはり体験させる、本物を見る。いくら私たちが言っても、本物に触れないと本物は分からない、良い目は育たないということで、安藤先生の建築設計による本の森、これは本物の建築です。そして、千葉家住宅これも本物の歴史的建造物ということで、こういったものが遠野にあるということ子どもたちに誇りに思ってもらって、そういった目を養うということは大事だと思いますので、千葉家にしても、本の森にしても、遠野の子どもたちに来てもらえる仕組みを作っていく、子どもたちが本物に触れ、本物とはどういったものか、という目を養うというところを重点にしたいと思います。

総括的には、文化の取組というのは、大きく遠野の文化というものを今の人たち、将来の人たちにつなげていき、一続きにつなげるといったことが大きな目的だと思います。そういったことを総合計画の中でも色濃く出していき、文化による人づくり、町づくりといったところを強く進めていきたいと思っています。

○市長

いろいろな意見をいただきましたが、文化という切り口はまさに遠野ならではのということになると思います。遠野物語が発刊されて今年で110年、しかし、コロナによってイベントなども延期、中止ということになっております。しかし、この遠野物語が110年前に発信したメッセージは普遍的なものであり、令和の時代にますます重要になってきているのではないのかと思います。

そこに安藤先生との出会いがありました。これは、点のプロジェクトではありません。その中で、委員の皆さまからご教示いただきましたとおり、遠野ならではの地域資源がネットワークとなり、多くの方々がそれを求めて、何かを求めて遠野に来るということになるわけですから、人口減少に立ち向かうための、他の市町村にはない大きな魅力を持っているということ。子どもたちも含めて、自信と誇りを持たなければならないと思います。それが、結果として安藤先生の高い志、そういったものとしっかりと合致することにつながるのではないかと思います。いよいよ着工になり、スタッフも頑張っているところですから、この計画の中に、大綱4の中に示されている1つの切り口に磨きをかけていくということになるのかと思いますので、委員の皆さまの更なるご協力をよろしくお願いしたいと思います。

次は、子育てという切り口に入っていきたいと思います。「子育てするなら遠野」というスローガンの中で、子育て応援部の立ち上げ、こども政策課、母子安心課、さらには助産師を3人職員として採用するという中において、いろいろ取り組んできております。わすっこ条例、わらすっこプラン、わらすっこ基金という3本柱、3点セットも走り出しておりますので、その辺についての意見交換をしてみたいと思いますので、この分野について忌憚のない意見をいただければと思っております。

よろしく申し上げます。

○千田委員

子育てサポートについて、意見を述べさせていただきます。

「子育てするなら遠野」ということで、子育てしている母子にはすごくきめ細かに設定されていて、私が子どもを産むときとは全く様子が違って、相談できる窓口もある、助産師さんもいる、いろいろなサポートがあるだけで安心するのではないかなと思います。産婦人科医がいないのが痛いところですが、相談窓口は妊産婦さんが安心するところなので、産んだ後のケアとか、相談できる体制が整っているのも、それは非常に良いことだと思います。

子どもの口腔衛生については、三世同居ということによって父母にはむし歯の原因を勉強する機会はたくさんあるのですが、祖父母は子どもが帰ってくるとおやつをあげてしまうのも一つあって、むし歯の原因について祖父母は勉強していないので、よく勉強会で話をしていたのは、おじいちゃんおばあちゃんにも勉強させてほしい、孫勉強ではないですが、そういったことを取り組んでもいいのかなと。遠野は同居世帯が多いので、皆で子育てしましょうということ、そういうのがあっても良いのではと思いました。

○市長

では、崇委員どうぞ。

○菊池崇委員

今、千田委員から口腔衛生に対するお話がありましたので、私からは提案なのですが、そもそもむし歯というのはむし歯菌が口内に存在するからできるのであって、2歳半から3歳の間に菌のバランスが定着して、それ以降ということになります。そこまでむし歯菌が口内に入らなければ、むし歯になることはない、あるいはそれが少なければむし歯になるリスクは少ないということが科学的に証明されております。この知識を広めていただきたい。

都市部にはむし歯にならない割合が高いという話がありましたけれども、都市部と遠野市との違いは、都市部は核家族が多い、遠野市は3世代同居が非常に多いわけです。これは、私の実体験ですが、もともとむし歯菌の話は知っておりましたので、子どもは可愛いのでいろんなことはしたいのですが、我慢していました。合い箸もしない、自分が使ったスプーンも子どもに使わないということをしていました。実は、目を離したすきに、おばあさんがしてしまいました。もうダメだと。親が分かっている、むし歯の教育というのはおじいさんおばあさんに伝わっていない。むし歯を減らすという観点で考えるのであれば、まず、家庭内でおじいさんおばあさんの知識を教育することが必要であろうと思います。歯医者さんもブラッシングはむし歯には関係ない、歯周病対策だよと、むし歯はフッ素だよと言われる方が非常に多いので、家庭内で教育を徹底すればむし歯の比率は圧倒的に減ると私は考えます。

○菊池和子委員

私は、今、おじいさんおばあさんの話をされましたが、中にはそういう知識を持っている方もいらっしゃると思いますので、市民をあげて、歯はいつまでも大切ですので、市民の健康の中で、ウォーキングしたり、体操したりというものもありますが、歯の健康を考えまし

ようという市民運動を起こしたらいいのではないかと思います。おじいさんおばあさんだけではなくて、いろんな世代で話題にしていくというのが重要ではないかなと思います。

もう1つ、私は児童館にも勤務させていただいているのですが、先ほど市長さんから、コロナ前後の話がありましたが、コロナがあって、児童の放課後の学習環境、生活環境がどうなるのかとすごく考えています。正直に言って、児童館に通っている子どもたちは密な所と密でない所があります。福祉施設なので、いろんな子どもたちが来ていいので、そういう意味では子どもの居場所として児童館・児童クラブはすごく大事なところだと思いますので、コロナ後のことを考えて、そういう児童館・児童クラブの整備というのも必要なのではないかなと思います。いろんな所で児童館の整備が進んでいるので、もう少しですので、是非お願いしたいなと思っていますところでは。

○市長

今、それぞれ子育てという部分の意見を伺いました。今意見をいただいたところで担当部長の方から、和子委員からもコロナ後もふまえながら、皆で子どもを育てていくことなどの非常に良い協議がされたと思います。

○子育て応援部長

ありがとうございました。子どもの健康づくりの基本であります歯の衛生、口腔衛生ですが、治療、予防の仕方、歯磨きだけではなくて、いろいろ視点を向けていくと、家庭に根本的な生活習慣の違いなどが確かにあります。

これは、孫育てということになりますが、子どもの健康づくり、むし歯というキーワードでは皆さんの共通点になります。中でも、基本的な歯の衛生では、家庭にも、地域ごとにも入って、皆さんで学べる機会、情報の共有と共感を深めながら、おじいさんおばあさんには孫育てに積極的に関わられるような環境づくりを目指していかなければならないと感じました。

子育ての生活様式ということで、和子委員から児童館・児童クラブ、これも単なる子どもの活動の場ということではなく、そもそも18歳まで利用できるわけですから、いろいろな世代の交流も企画されていて、その中でコロナの影響で工夫が必要であります。

ただ、そういうところにも、新たに先ほどの健康づくりの視点も併せて、世代を超えて、皆で子育てをしましょう、交流をしましょうというような、新たな結び付きを強くするようなことも今後の工夫次第では活動の中に取り入れるし、施設整備もそういったところを踏まえて、やっていかなければなりません。こういう場というものの施設整備については対象エリアをくくるという部分と古い部分と、さまざま地域の拠点の1つでありますから、そういった部分も踏まえてやっていかなければと感じました。

ありがとうございます。

○市長

今、担当部長からコメントがありましたが、子育ての計画というものが絵に描いた餅のような計画を立てるのであれば誰にでもできるわけです。しっかりと形にし、また成果をあげるためには財源との整合性もあり、バランスをどう組み立てるかというものが悩ましい課題であるわけであります。

しかし一方で、少子化という現実を目の当たりにしたときに、今の子どもたちにより良い環境を作るといことも我々の責務ではないかなと思います。お金がないと言ってはいられない。借金も財産の1つだという例え話も良くあるわけですが、そのように今の子どもたちにより良い環境の中で、地域と一体になり、保護者と一体になり、まさに行政と一体になりといった中で、子育てというものもしっかりと対応しなければならないと思っております。

このことにおいて、限られた財源を見いだしながら、この分野にどうつぎ込むのかということが大事ではないかなと思っております。委員の皆さまの知恵をあるいは点数を付けていただければと思っておりますので、大きなビジョンに基づくものは、もちろん夢を持たなければなりません。可能性も追及し調整しなければなりません。しかし、現実に今子育てで苦勞している方々、いろんな夢を持ちながら、懸命に頑張っている子どもたちにそのように実感できるような環境を作ってやらなければならない。大きくなってから、子どもがいなくなつてから、あれこれしようではなく、今やらなければならない。難しいことにも対応しなければならない課題ではないかと。

今の総合計画について、委員の皆さまから貴重な意見も出ているので、策定委員会に向けて作業を進めなければなりませんので、東ね役の総務企画部長から総括的なコメントをいただければと思います。

○総合企画部長

長時間にわたりありがとうございました。総合計画の後期基本計画については、もう少しで見通しが立つところまでできております。先ほど、市長からも絵に描いた餅ではいけないということを前提に計画を策定しているということで、今日は皆さまには計画の大綱2、4が主に中心になるところでしたが、大綱3、5のところにも貴重なご意見をいただきましたので、もう一度明日に向けて、最後の詰めをきちんとしていきたいと思っております。

貴重なご意見ありがとうございました。

○市長

明日の策定委員会に向けて、今日いただきました貴重なご意見を計画に反映させられるよう、ぎりぎりまで努力をいたしますので、よろしく願い申し上げます。

繰り返しになりますが、最終答申をいただいて計画が決まったということではなく、それからいろんな動きがある、見直しがあるわけです。後期基本計画の実施計画にも持ち込まなければならない。実施計画に持ち込むということは令和3年度の当初予算にしっかりと反映させるという作業があるわけです。なお一層、皆さまのご協力をよろしくお願いしたいと思います。

では、今日の第2回総合教育会議は、学力向上につきまして、総合計画審議委員の皆さまからも意見をいただいておりますので、この学力向上に伴う指標につきましては、教育長にある程度対応を任せている、取り組んでもらうように約束をしておりますので、学力向上の指標等につきましては、ご理解をいただきたいと思います。

それから、進路指導の問題も悩ましい問題であります。小中高連携推進監から話がありましたけれども、中学校2年生から3年生の中での意識変化、子どもと保護者間とのミスマッチ、保護者の意向との違い、遠野高校、遠野緑峰高校の魅力化、その辺が少しでもミスマッ

チが無いよう、しっかりと対応するという難しいかじ取りではありますが、真摯に向き合いながら、魅力のある高校のあり方ということについて、委員の皆さま方のご協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

遠野高校、遠野緑峰高校も頑張っております。この間、とぴあで情報処理科の生徒さんがフリーマーケットを行っておりまして、ついつい財布の紐が緩んで、たくさん買ってしまいましたが、一生懸命やっているのだから買ってしまいます。あのような力が今の遠野にとって必要なのです。そういった点では、皆で応援してあげるようによろしくお願ひします。

総合計画の方は、委員の皆さまに見ていただきました。担当部長、総合企画部長からもコメントしました。ぎりぎりまで頑張るって良い計画を作りたいと思っておりますので、これからもよろしくお願ひ申し上げます。

コロナが終息しておりません。まだ拡大拡散の動きがあるということで、なお一層緊張感をもって、学校現場、教育委員会の方で子どもたちに感染が及ばないように、厳しい現実が待っているわけですから、これもまた協力をよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で、第2回総合教育会議を終了させていただきます。

○教育部長

ありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れ様でした。

閉会 午後11時25分

会議録作成者 遠野市長 本 田 敏 秋

署 名 教 育 長 菊 池 広 親

署 名 教 育 委 員 角 田 直 樹

署 名 教 育 委 員 千 田 由 美 子

署 名 教 育 委 員 菊 池 崇

署 名 教 育 委 員 菊 池 和 子